

そうぞう

2004.12 No. 11

「そうぞう」とは

人権尊重社会を実現するためには、様々な偏見や差別を受けている人の状況・気持ちを「想像」すること、豊かな人権文化を「創造」する必要があります。この情報誌がこれらの「そうぞう」につながるように——そんな思いが込められています。

CONTENTS (もくじ)

人権学習をととした「自分さがしの旅」 —中学生、高校生(10代)の自己決定—

府立伯太高等学校・豊中市立第十六中学校

人権随想 「人権教育」にたずさわってきて
棕本 洋(立命館大学教授)

用語解説・紹介

人物紹介

「自己決定」する力や困難を切り開いていく力を
貝塚市立第二中学校校長 尾崎 静江さん

人権相談Q&A

シリーズ/草の根の取り組み

第34回講談社出版文化賞・絵本賞を受賞
絵本『おたまさんのおかいさん』
～絵本で語りつぐムラの誇りとまちおこし～
日之出の絵本制作実行委員会(大阪市)

シリーズ/教材・カリキュラム紹介

『「親」をまなぶ・「親」をつたえる』
大阪府教育委員会地域教育振興課

シリーズ/自尊心と暴力を考える ③

自尊心暴力理論
～自分に向かう暴力の場合・そして連鎖～
金 香百合(HEAL・ホリスティック教育実践研究所長)

ご案内/困った時は一人で悩まないで
「人権週間における特設人権相談」

がんばってます!/NPO紹介

RINK(すべての外国人労働者とその家族の人権
を守る関西ネットワーク)

ご案内/第3回 識字・日本語研究会

おしらせ/市町村事業

ご案内/人権啓発・教育の企画づくり講座
～コーディネーター養成～

まちを歩く/人権のかおりを求めて

【第7回】大利商店街界限

人権啓発詩/指

12月10日は
「人権デー (Human Rights Day)」
12月4日から10日までは
「人権週間」!!

—12月10日は「世界人権宣言」の第56回目の誕生日です!—

府立伯太高等学校・豊中市立第十六中学校



人権学習をとおした「自分さがしの旅」 —中学生、高校生(10代)の自己決定

大阪府立伯太高等学校・豊中市立第十六中学校

「人権」の基本は、一人ひとりが個性や能力をいかにしながら、正直に「自分らしく生きる」ことです。今回は、人権学習の実践事例を紹介し、中学生や高校生にとっての「自分さがし」を探るとともに「すべての人が自分らしさを考えながら生きる」ことへの第一歩である「自己決定」について考えます。

自分と向き合い、夢をさがせる学習

—グローバル・スタディーズ(GS)の実践

7年目を迎えた「GS」の学習

“夢に向かって頑張る姿がカッコイイ”。大阪府立伯太高等学校(井原貴美代校長)は「総合的な学習の時間」(用語解説参照)として、グローバル・スタディーズ(GS)を実施しています。

この学習は「自分と社会の関係をグローバルに見つめ、自身の進路を切り拓くための時間」として、1998年度より始めています。さまざまなプログラムを通して、自分と友だち、自分と家族、自分と社会、自分と世界、そして、自分と自分について考えていきます。

学習をとおして、▽ありのままの自分を受け入れ、その延長線に他者を尊重する態度を育む▽具体的な人間の生き方を通して、これまでの自分を対象化し、これからの姿を想像する力をつけさせる▽さまざまな教材を通して、個々の問題の意識化をはかり、その解決のための技能を育成する—ことをねらっています。

現在、1、2学年で実施しており、▽いままでの自分をふりかえる(セルフエスティームを育む)▽さまざまな人々の生きかたに触れる(人権問題・多文化理解)▽これからの自分の姿を想像する(進路について考える)—など、「気づき」を視点に学習を進めています。

人間関係づくりから

「自分さがし」、「夢から仕事」へ

具体的には、まず、「『出会い』を大切に—気持ち伝える」として、他者とのかかわりの中で、人間関係をより良くする方法を学びます。それから、いのちの重さを教える取り組みなどを通して、自分を振り返りながら、自分の「居場所」を考える「自分さがし」へつなげ、そして、「自分を語る」2分間スピーチなどで、「自分のことを伝える—自分を表現す

る」実践を展開します。

さらに、ビデオ学習などを通して、「夢に向かって頑張っている姿」にふれさせ、「夢から仕事」へシフトして、「資格編」「職人編」「好きな仕事」「技術編」に分けて、職業を紹介し、「夢と仕事」について考え、チャレンジする気持ちを促す学習へと発展していきます。

ある生徒は「自分を見つめ直したり、夢や出会いがあって、楽しく勉強できた。前より自分のこと、まわりのこといろんなことがわかってきた。GSって、自分と向き合えて、夢を探せる、そんないい場所(授業)やったんやなーって思った」と学習を振り返っています。



就職準備セミナー

「GS」と進路指導は「車の両輪」

また、「GS」学習と進路指導を「車の両輪」としてとらえ、連携しています。「現場で現場の人から学ぶ」として、少人数グループで、大学・短大・専門学校の見学や体験会をはじめ、企業・福祉施設などの見学会や体験会、外部講師による就職希望者向けセミナー、保育所での保育体験(家庭科2学年全員)などを実施しています。

それから、ものづくりの楽しさを体験する「私のしごと館(仕事体験)」や卒業生を中心に招いて、仕事についての体験を聞く「ようこそ先輩」のほか、「夏の体験・レポート」として、介護体験、福祉体験、企業見学やアルバイトなど、体験したことをレポートにまとめ、それを廊下に掲示するなどして、そこで得た教訓を引き出し共有するといった取り組みなども企画、実践しています。

生きかたに結びつけ、進路につなげる

今後の課題について、「GS」開講当時から中心になってかかわってきた山本弘教諭は「担当する教師の

世代交代が必要」と前置きした上で、「生き方に結びつけて、進路につなげるという『GS』のねらいや趣旨を次世代につないでいきたい」と話しています。



私のしごと館

「生きる力」の育成から「就労」意識の醸成へ —職業体験学習の実践

全市的な取り組み

「豊中チャレンジプランCUL（カル）」

豊中市立第十六中学校(大友庸好校長)は、「生きる力」を育みながら、就労意識の醸成を図ることを目的に、2学年で3日間の「職業体験学習」(用語解説参照)を実施しています。

豊中市では、新教育課程のねらいの中で、「自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題解決する資質や能力を育てる」ことが求められていることから、地域社会の人々との交流や社会体験が必要であると考え、1999年度より全市的な取り組みとして、「豊中チャレンジプランCUL（カル）」を実施しています。

職業について、調べ、考える

同中学校のCULの取り組みは、1学年ではまず、「職業体験事前学習」として、▽それぞれの職業につくためには、どんな方法があるのかを知る▽身近な人の職業について、働く喜びや、苦勞について知る一ことを学習します。

そして、「職業について身近な人からの聞き取り」として、保護者の仕事について考えたり、関心のある仕事についている身近な人に、どんな方法でその職につけるか、どれほどやりがいがあるのか、どんな苦勞があるのかについて調べることを冬休みの宿題にします。

3学期には、「職業調べ学習」として、各自が興味・関心のある職業について、どんな方法でその職につけるのか、どんな資格がいるのかなどを、図書館などで、調べます。

職業希望調査から、実際の職業体験へ

2学年ではまず、▽就労について▽労働の意義▽労

働の義務—について考えます。4月～6月までの間に、道徳、学活、総合の時間を使って、「自分自身を見つめる」「自分の進路を考える」「労働について考える」—学習を行います。

さらに、「労働の現実を聞く」として、ハローワークの担当者を招いて、就労の現実を知ると同時に、働くためにはどんなことを身につける必要があるのかを考えます。

そして、2学年の6月に1回目の7月に2回目の「職業体験希望調査」を実施し、具体的に自分が希望している職業を書きます。夏休み中に、生徒の希望する職場に教師の方から連絡を入れて、「職業体験」ができるか確認をとります。

「職業体験」は11月に3日間実施しますが、9月前半に教師が受け入れ先の会社に挨拶するほかは、生徒自らが会社に電話をしたり、訪問したりして、日程や注意事項を打ち合わせます。

保育所で体験したある生徒は「子どもたちとも仲良くなり、みんながなついてきた時はほんとうにうれしかったです。一人ひとりが個性豊かで、見ていだけで楽しくなりました。今回、体験させていただいて、本当に保育士さんになりたいと思いました」との感想を寄せています。



ファーストフード店での体験

仲間づくりを基本に「切磋琢磨」も

「職業体験」を振り返って、担当の堀口龍生教諭は「小学校から中学校までの9年間を見通した指導計画・学習プログラムの作成が急がれます。その中でこれまで大切にしてきた『仲間づくり』を基本にしながらも、一人でも生きていくことのできる力をつけさせることが大切です。また、いろいろな実践を通して『切磋琢磨』することも求められていると思います」と話しています。



銭湯での体験



毎日のように報道される教員の不祥事や謝罪している校長の姿に象徴されるように、今日ほど、教師であることが難しい時代はなかったといっただろう。

その渦中であって、教師は、あるいは学校は「揺れている」。

そのひとつの証拠に教員の定年がある。世間では、先生には夏休みがあって、産休や育休が保障されていて、結構な職業であると見られているが、現状は定年まで仕事を続ける先生は半数に満たないのである。ことほど左様に教育の現場は厳しい。

「人権教育・学習」とのかかわり

……教師としての生きがい

その中であって、私が、30歳前半で教師になったとはいえ、高校教師として定年までまっとうできたのは「人権教育」とのかかわりがあったからといえる。それをひとことでいってしまえば、困難な状況を克服して今も人間としてすばらしく成長している生徒たちの姿や悩んでいるときに支えてくれた同僚たちのおかげで教師という職業に生きがいを見出せたからであろう。

それは大学で教職を目指す学生たちを教えている現在でも変わらない。

教育にかかわっている先生方や保護者など多く

の方に伝えたいことだが、「揺れている」時代にあっても、教えているほとんどの学生たちは、過去に出会った教師たちを挙げ、理想の教師のモデルとしている。このように教育は生きているし、「先生」は存在しているのである。以下は、そんな一人の学生がつづったレポートの一部である。

「みんな一緒」？……ある学生のレポートから

『多くの在日韓国・朝鮮人が日本名で生活する原因の一つに根強く残る差別・偏見があります。しかし、両親は「たとえいじめを受けても韓国人だということに誇りを持って堂々と生きてほしい」という思いから私に本名を名乗らせたのでした。

小学校、中学校の頃の私といえば、「変な名前だ」とからかわれたり「韓国人、韓国人」とはやしたてられ、みんなと違うという理由から、たくさん嫌な思いをしました。

その度に両親に「何で本名を使わせたん？」と泣いて困らせたことを覚えています。

…中略… そのときの私は、ただただ「みんなと一緒に」になることへ憧れを抱き、自分の名前や韓国人という事実に対しても“誇り”というものを感じたことはありませんでした。

しかし、高校に入ってから、私の考えは一変しました。在日のことに関心を持つ先生が、在日の生徒を集めた部活動を編成、私もその一員として民族楽器をたたいたり、母国語を学んだりといった活動をするようになりました。

その高校では様々な取り組みを推進しており、授業内容も驚くほど多様で生徒の個性も輝いています。それまで、自分を縛っていた「みんな一緒」という締め付けから解放されて、自分の中での人と違う部分、在日韓国人であるということをも

ジティブに捉えられるようになりました。』

このように彼女を理解する一人の教師の存在が、そして、そうした活動を保障する学校が彼女を解放したといえるだろう。もちろん、「本名を名乗って生きること」を勧めた御両親の力もあったと考えられる。

「一人ひとり違って当たり前、違うことこそ素晴らしい」……「地球市民」として共生できる社会へ

私は、このレポートを読んだとき、人権教育の持つ力のすばらしさを改めて発見した。「人権教育」は一人ひとりの生徒たち（子どもたち）が、自分を見つめ、自分らしさを発見し、多面的な価値観を身につけ、未来に展望を持ち、ともに生きていくことを教えることだといわれる。

いま、私たちは「自由な選択による競争と差別の

社会か、異質な人々が共存し共生する社会か」という未来社会のあり方を問う岐路に立たされてる。

彼女のレポートは『「一人ひとり違って当たり前、違うことこそ素晴らしい」ということを学校教育の中で広めることができたなら、多くの子供たちが個性に磨きをかけ、より広い世界へと羽ばたくことができるように思います。』と結んでいる。

彼女が述べるように、この21世紀は、人々が「地球市民」として共生する社会になることを私も願っている。

そのためには、このような学生達が教壇に立ってほしい。そのことによって、学生達のあこがれの先生が再生産され、同時に教育という営みのすばらしさが再確認されることで、今、現場で活躍している先生方にとっても元気が出てくるに違いない。

用語解説

【総合的な学習の時間】

国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題、高齢化など子どもたちをとりまく環境の変化や、社会体験や自然体験の減少などの状況を考慮し、人間としての調和のとれた育成を一層重視する必要があることから、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむために、各学校が創意工夫を生かして、教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習を実施できるよう、小中高等学校の教育課程に新たに創設された。

ねらいとして、(1) よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、(2) 学び方やものの考え方を身につけ自己の生き方を考えることができるようにすること (3) 教科等で身につけた知識や技能等を学習や生活において生かすことができるようにすることと示されている。

具体的な取り組みとしては、学校や地域、児童・生徒の実態に応じて創意・工夫を生かした活動をする事としてしているが、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの課題や、興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などが示されており、伯太高校では「GS（グローバル・スタディーズ）」と呼び実践している。

【職業体験学習】

職業や仕事の世界についての具体的・現実的理解の促進、勤労観、職業観の形成、自己の可能性や適正の理解、自己有用感等の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等を目的に中学校を中心に実施されており、豊中市では「豊中市チャレンジプランCUL（カル）」と呼び実践している。

職場体験学習の意義（文部省進路指導資料より）

- 職業や自己の適性について、現実的、具体的な知識・理解を得、主体的な進路選択能力を高めることができる。
- 働くことの喜び、社会的な意義や役割などについて知ること、望ましい職業観の形成につながる。
- 職業上のスキルの初歩を体得でき、職業生活を営む上でのマナーやルールを知ることができる。
- 地域社会の活性化が言われる中で、地域の企業や職業についての理解を高め、進路の選択肢を拡大することができる。

人物

紹介

「自己決定」する力や 困難を切り開いていく力を



貝塚市立第二中学校

校長 おざき しずえ 尾崎 静江さん

最近、30数年前の教え子から突然、連絡があった。現在、「大学でアジアと日本の関係について、学生に教えている」との声の頼り。当時、中学校の社会科学を教えており、歴史の授業などを通して、「本論はずれて、現代社会のあり方などを熱っぽく語っていた」。その影響を強く受け、後の「進路選択」につながったという。

「教師の願いや思いを素直に受け入れて、自分の職業につなげてくれたことを知り、うれしいと思うと同時に教師の責任の重さを改めて感じました」

多くの子どもとのかかわりのなかで、常に自分自身を戒めてきた。なかでも、3年間担任を受け持った生徒とのかかわりは忘れられない。「家庭の事情でおばあちゃんに育てられていました。健康面、学力面とも課題があり、生活習慣も身につけていませんでした」

3年生になって「進路」の問題が目前に迫っていた。「手に職」をつけさせてあげたいと、職業訓練校で「木工」を学ぶことを目標に定めた。「そのために必要な基本的な学力を身につけさせるために、その生徒以外にも、『気になる生徒』数人を集めて夏休みの間自宅で合宿しました」。勉強しながら、生活習慣も身につけさせるために寝起きを共にした。

生徒はある職業訓練校に入学することができた。しかし、一緒に進学する友だちもいないなかで、一人の寂しさから、授業はエスケープ、そのうちに遊び仲間ができて、問題行動を起こすなど、学業が続かなくなって中退した。その後、仕事も長続きしなかった。

「気持ちの面では、寄り添ってかかわったつもりでした。家庭にも入り込み、おばあちゃんとも仲良しでした。それなのに…」。自分に何が足りなかったのか、悩んだ。

そして、「自己決定」する力、社会のなかで困難を切り開いていく力など、そういう意味での「学力」や「生きる力」を身につけさせてやれなかったことを悔やんだ。後に、そのような力をつけさせようと、修学旅行を見直し、職業体験学習に先進的に取り組んだのはその教訓を活かすためでもあった。

「今、何を思って、何をかかえて生きているのか。そのために教師として何ができるのか。一人ひとりの子どもをしっかり見れる、つかめる。教師の原点だと思います」。常に自分に言い聞かせると同時に、後輩へのメッセージでもある。

そうぞう

6

2004.12*No.11



人権相談

人権相談に関する
質問と回答をご紹介します。

Q 知的障害をもつ子どもが学校を卒業し、就職を希望しています。どこへ相談に行けば自分にあった働き先が見つかるのでしょうか。

A 職業紹介や職業指導を行う機関として、公共職業安定所（ハローワーク）があります。窓口には担当職員や職業相談員がおり、ケースワーカーによる相談が行われています。また、大阪障害者職業センターでは、障害者の職業能力や適正評価

とともに職業リハビリテーション計画を立てたり、就職後のフォローアップを行っています。事業主に対しても雇用管理等に関する相談・助言を行うなど、総合的な支援を実施しています。なお、同センターでは、事業主が障害者を3ヶ月間トライアル雇用として雇い入れることを奨励・支援する障害者雇用機会創出事業も実施しています。

・大阪障害者職業センター
大阪市中央区久太郎町2-4-11
(クラブウエアネックスビル4F)
TEL 06-6261-7005

(財)大阪府人権協会 人権相談窓口
月曜～金曜 10:00～17:00
TEL : 06-6562-4040

HUMAN RIGHTS

第34回講談社出版文化賞・絵本賞を受賞

絵本『おたまさんのおかいさん』

～絵本で語りつぐムラの誇りとまちおこし～

日之出の絵本制作実行委員会（大阪市）

●日之出の絵本制作実行委員会の活動

部落差別と貧困の中を助け合って、しぶとく生き抜いた先輩達の生きざまをムラの誇りとして、21世紀を担う子ども達に伝えたいという思いから、2001年9月、地元の父母、地域の保育所、小、中、高校の教師ほか有志ら30数名で発足。絵本完成後も朗読活動、啓発活動、絵本制作の支援活動を行っています。絵本賞の受賞は、熱い思いがあれば絵本が作られるのだという希望を与えていただきました。

●絵本の内容

おたまさんが隣近所の人々と「おかいさん」を分かち合いながら生きていく姿を描きました。おたまさんが唱える「おかいさん おかいさん ぐつぐつ ぶつぶつ こーい こーい。さあや はえ やれ ひとつまみ ぱっ」の呪文。「こーい こーい」は地域に伝わる子守り唄から、「さえ はえ やれ」は、地域に伝わる中島音頭から採用しました。

●肝っ玉おたまさんは実在した

「おたまさんは」は、山中タマエという実在の人物でした。肝っ玉が太く、困った人をほっとけ



保育所での読み聞かせ

ず、夫婦喧嘩をおさめたり、ヤクザに意見したり、バクチも好きという一面もありました。5歳からマッチ工場に住み込み、読み書きは一生出来ませんでした。布団の仕立ての仕事で、孫二人の面倒をみました。孫が始めた子ども会や部落解放運動の一番の理解者でもありました。今年は、子ども会創立50周年、支部結成45周年になります。

●これからは「静かな暖かみのある運動」

・文化活動の出番

たった一冊の絵本ですが、この絵本のお陰で人と人のつながりが広がっています。書店、図書館や朗読グループの皆様のご尽力で、全国各地で原画展が開催されています。7月には山形市で開催されました。保育所、幼稚園、学校、地域の図書館、市民講座で、平和教材として、戦後の生活を学ぶため、部落問題学習の導入など、多様な切口で活用がされています。「おたまさんのふるさとを訪ねて」のフィールド・ワークにも全国各地から来ていただいています。2005年1月にホームページを開設予定しています。

絵本購読・原画展・フィールドワーク・講師派遣の
申し込みは：新大阪人権協会 中尾まで
TEL 06-6322-6985

(原画は無料です。但し保険を掛けてもらっています。
送る時は郵送料を負担してもらっています。)



地域のさまざまな集まりで、子育てや親のあり方について学びあうための教材
『「親」をまなぶ・「親」をつたえる』

シリーズ
教材・カリキュラム
紹介



○教材の趣旨

「親」としてのあり方や子育てについては、だれにでもあてはまる答えというものはありません。自信をもって子どもに向き合うことの大切さや、自分を大切にすると同時に相手を尊重する気持や、人と人とのつながりの大切さなどを、保護者自身が子どもとともにしっかりと学びあい伝えることが私たちに求められていると考えています。

この教材をヒントに、多くの人々が「親であること」の大切さや子育てについて積極的に話しあい、子育ての楽しさやすばらしさをつたえあうことで、みんなが子育てに関心を持ち、ともに子どもたちをあたたく見まもる関係づくりがすすむことを期待しています。

『「親」をまなぶ・「親」をつたえる』の発刊に寄せてより
大阪府社会教育委員会議議長
親学習プログラム研究開発委員会委員長

岩堂 美智子

そうぞう

8

2004.12*No.11

○教材の内容・特質

この教材は、中学・高校生、子育て中の親、子育てを支援する時期までの幅広い世代を対象とし、周囲の人との対話やふれあいをとおして、参加者自身が主体的にまなぶとともに、子育てを支えあう地域での人間関係づくりについて考えることをめざしています。

教材の内容は、身近な「エピソード」を題材に「話しあいのポイント」が示され、参加者どうしが自分の経験と比較し、共感したり反発することから対話をひろげ、いろんな人の意見を聞くことにより、自分自身の子育てについて考え、まなぶことにつながるよう考えています。

エピソードの一例



自尊感情暴力理論 ～自分に向かう暴力の場合・そして連鎖～

金 香百合 (HEAL・ホリスティック教育実践研究所所長)

一回目には自尊感情（セルフエスティーム）のことを紹介しました。「私OK、あなたOK」の自他尊重の関係が実現し、互いの可能性を引き出しあうエンパワーがおこります。私たちがめざす「人権の文化」とは自尊感情（熱）とエンパワー（光）が循環する世界です。二回目には、自尊感情の低下から暴力がおこる問題を見てきました。特に暴力のなかでも、人に向かうものに焦点をあてました。私たち人間はからだの栄養やこころの栄養が不足してくると、人に対して暴力を向けます。それらは、肉体的暴力だけでなく、言葉の暴力、精神的暴力・性暴力・社会的暴力・経済的暴力など多岐にわたります。その暴力の程度もさまざまなレベルがあります。暴力のレベルが小さいうちに気づいて、栄養不足を解消する必要があります。でも実際には、我々の感覚がマヒしており、大きな暴力になるまで気づかないのです。

さて、今回は自分に向かう暴力です。①肉体的暴力……自殺、さまざまな依存症、自傷行為など、からだに悪いのはわかっているけどやめられない。現在、日本の自殺者は1998年以来年間3万人を越えています。中高年男性、高齢者、子どもの自殺が多いという特徴があります。依存症にはタバコ、酒、ギャンブルなどがあります。さらに薬物依存、摂食障害、携帯電話依存なども若者に広がっています。②言葉の暴力……日本では自分のことを否定的に語る人がたくさんいます。「自分なんて……」「自分にはいいところがない」「自分は無力だ」など、普段の生活の中にも自己否定的な言葉が溢れています。＜謙遜が美德＞という段階をとくに越えている状態です。③精神的暴力……抑うつ、ひきこもり、パニック。人間関係や生きることのつらさから自分の世界に閉じこもっていくことがおこります。④性暴力……極度の自己否定感の中で、自分のこ

ころもからだも利根的に投げ出していく子どもたち。ところで自分に暴力を向けるというのは、人間のもつやさしさなのかもしれないと私は思う時があります。自分に向かう暴力によってかろうじて自分の心身のバランスを保つことができている状態でもあります。自尊感情を奪われ続けるような厳しい環境の中で、その時の自分を生き延びさせるためのぎりぎりの選択肢だったと思います。

このように、人間は栄養不足から自尊感情が低くなると、しばしば暴力性が出てきます。暴力が人に向くときもありますし、自分自身にむかうときもあります。小さなレベルも大きなレベルもあります。こうした暴力には特徴があります。①連鎖する②弱いほうに向かう③拡大する、の三つです。最も典型的な例をみましょう。栄養不足の男性たちの暴力が自分に向かうと酒やギャンブルにおぼれ、うつや自殺がおこる。人に向けるときには弱い方にむくので、職場ではいじめやセクハラ。家庭では妻にDV、親に高齢者虐待。子どもに虐待。夫がそのような状態にあると妻たちもまた栄養不足から自己否定的になりやすく、一方で子どもに暴力が向かうことも。親がそのように暴力的な環境では、子どもたちもどんどん栄養不足になり、自傷行為やひきこもりや性逸脱。他方で年下やおとなしい子をねらってのなぐる・ける・どなる・差別発言・恐喝など。さらに小さく弱い弟妹や幼児、小動物にむけて暴力がむく。連鎖のたびに暴力が拡大していくような様相をみせます。これが私たちのすぐ足元で拡大している暴力の構図です。

1月15・16日にセルフエスティーム研究集会を開催します。

詳細は私のホームページで。

<http://homepage3.nifty.com/kimrin/>

そうぞう

2

2004.12*No.11



困った時は 一人で悩まないで「人権週間における特設人権相談」

(財)大阪府人権協会と下記の市町村では、人権週間にあわせて、「人権に関わる相談窓口」を特設します。

■人権週間特設 一ひゅーまんライツ法律相談—

女性・子どもの人権に関わる法律相談を実施します。

(無料・要電話予約)

日時 12月6日(月)～10日(金)(※土・日曜日をのぞく)
13:30～16:30 18:00～21:00

場所 (財)大阪府人権協会(大阪市浪速区久保吉1-6-12)

電話 06-6568-2983(先着制)

※毎週金曜日は定例相談(無料・予約制)を実施しています

■市町村の人権週間特設人権相談

(無料)

・詳しくはお住まいの市町村
にお問い合わせ下さい。



在日外国人の人権を守るための 支援や啓発活動を

RINK（すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク）

関西一円を活動地域として、在日外国人の人権を守るための支援及び人権啓発活動を目的に、1991年12月に設立されました。

外国籍住民の人権に関心を持つ市民団体や弁護士、労働組合、宗教関係者などに一般市民が参加してできた組織で、現在、会員230人（個人180人、50団体）を数えます。

日常的な活動としては、▽連続市民講座などを通じた人権啓発▽電話相談活動を通じた外国人支援活動▽行政との話し合い▽異文化交流活動▽ニュースレターの発行などを通じた情報提供や経験交流—などに取り組んでいます。

相談活動については、日常的に相談活動を行っている経験から、外国人をとりまく法制度の問題などに対する知識が深く、問題解決のための適切なアドバイスを行ったり、通訳者の派遣や時には必要に応じて同行して、援助するなど、実践的に取り組んでいます。

また、差別なく共に生きるための異文化交流として、実行委員会を呼びかけて、「マイマイ・フェスティバル」の開催をはじめ、労働組合主催の「外国人のためのなんでも電話相談」への協力、さらに、移住労働者と連帯する全国フォーラム」を共催するなど、同じ目的で活動するネットワークの連携を強めています。

その中で、「マイマイ・フェスティバル」は、和

太鼓、胡弓、タイ舞踊、フィリピン民族舞踊、韓国伝統芸能、ラテン音楽、バリ舞踊、アフリカ音楽や、各国料理、民芸品の出店、外国人人権相談、子どものコーナーなどの催しで、異文化交流を深めています。

事務局では増え続ける外国人相談について、「言葉（コミュニケーション）のできるスタッフの整備など、外国人からの相談に十分に対応できる体制づくりが急務」と話しています。



マイマイ・フェスティバルの場面

RINK（すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク）

〒540-0028

大阪市中央区本町1-2-13 ばんらいビル602

市民オフィス内

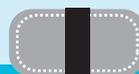
TEL 06-6910-7103 FAX 06-6942-0278

第3回 識字・日本語研究集会



国連識字の10年（2003～2012年）の3年目をむかえ、文字の読み書きや日本語の言葉を学ぶ識字・日本語学習が大切になっています。この研究集会では、識字・日本語学習の進め方や教室運営の方法などを研究・交流し、学習活動がさらに充実することをめざします。

日時	2005年2月5日(土) 10時～16時	内容	午前…全体会 国連識字の10年を進めるための課題についての講演 午後…分科会 国連識字の10年の取り組み、学習教材づくり、教室運営などに分かれて研究
場所	大阪人権センター (大阪市浪速区久保吉1-6-12)	問合せ	(財)大阪府人権協会 人権啓発部 TEL 06-6568-2983 FAX 06-6568-2985
主催	(財)大阪府人権協会 ／識字・日本語連絡会		
参加料	無料		





参加してください!!

高槻市関係事業

人権週間における街頭啓発

- 日時** 12月7日(火)
- 内容** 人権擁護委員会・人権啓発推進協議会などによる啓発物品の配布
- 場所** 高槻市内各駅ほか

人権週間記念行事「人権を考える市民のつどい」

- 日時** 12月11日(土) 午後1時～3時30分(12時30分開場)
- 内容** ・人権啓発作品表彰式
・音楽とダンスと手話による舞台イベント
- 出演** 歌風物師よっちゃん、山本 智子、浦野 健、高槻太鼓、D-MALE
- 場所** 高槻市立生涯学習センター多目的ホール
- 問合せ** 高槻市市民協働部人権室
TEL 072-674-7575・7458
FAX 072-674-7577

大東市関係事業

人権週間記念のつどい

- 日時** 12月18日(土) 午後7時～(午後6時20分開場予定)
- 内容** 美ら島からの風
古謝 美佐子(こじゃみさこ)ライブ&トーク
ゲスト: 沖縄かりゆし会
- 場所** 大東市立総合文化センター大ホール(サーティホール)
- 定員** 1200人
- 入場料** 無料(入場整理券必要)
11月25日(木)から市役所3階人権政策室・市民会館2階啓発推進課・総合文化センター2階事務所・文化情報センター・まなび北新・市民体育館・北条人権文化センター・野崎人権文化センター・諸福老人福祉センターで配布。
- その他** 手話通訳有り
- 問合せ** 大東市啓発推進課
TEL 072-870-9061
FAX 072-870-0907

高石市関係事業

たかいしフォーラム“NEXT”

—男女共同参画社会をめざして—

- 日時** 12月11日(土) 午後2時～午後3時30分
- 内容** テーマ: 子どもへの最高のプレゼント
—愛を伝える方法—
講師: 田上 時子さん(NPO法人女性と子どものエンパワメント関西理事長)
- 場所** 高石市中央公民館2階大集会室
- その他** 手話通訳有り、一時保育(1歳半～就学前)希望の方は12月3日までに申し込んでください(保険料500円、定員16人、先着順)
- 定員** 150人(親子参加OK!)
- 申込み・問合せ** 高石市人権推進課
TEL 072-265-1001(内線2301)
FAX 072-263-6116

阪南市関係事業

人権週間記念事業

- 日時** 12月11日(土) 午後1時30分～(午後1時開場)
- 名称** 人権まつり2004「ふれあい人権囃い」
- 出演** 桂 文福さん(落語家)、千田 やすしさん(腹話術)
- 場所** サラダホール大ホール

ヒューマンライツ出張セミナー(人権啓発講演会)

- 日時** 2005年1月28日(金) 午前10時40分～
- 名称** バイマーヤンジンコンサート
- 出演** バイマーヤンジン(音楽家)
- 場所** 阪南市立箱作小学校体育館
- 入場料** 無料
- その他** 手話通訳有り
一時保育(1才半～就学前)希望の方は、1週間前までに申し込んでください。
- 問合せ** 阪南市人権推進課
TEL 0724-71-5678
FAX 0724-73-3504

そうぞう

11

2004.12*No.11



人権啓発・教育の企画づくり講座

～コーディネーター養成～

- 日時** 基礎編 2005年1月12日(水)～2月2日(水)
計4回10:00～16:30
発展編 2005年2月8日(火)～2月23日(水)
計3回10:00～16:30

場所 大阪人権センター
(大阪市浪速区久保吉1-6-12)

定員 基礎編 30人 発展編 20人
※いずれも先着順

参加・資料代 いずれも2,000円

内容 基礎編…コーディネーターについての基礎的知識から、講座やイベントづくりのノウハウを学びます。そして、自分の企画づくりにチャレンジします。
発展編…自分の企画をもちよって、講師とともに企画の検討を行います。そして、よりよい事業の企画をつくりあげるノウハウを学びます。

問合せ (財)大阪府人権協会 人権啓発部
TEL 06-6568-2983
FAX 06-6568-2985



まちを歩く

人権の
かおりを求めて

第7回

寝屋川市大和東町 おおとし 大和商店街界隈



京阪電車の寝屋川市駅で下車、西へ足をむけると、大和(おおとし)商店街がある。約80店舗が軒を連ね、人と人とが自然に言葉を交わし、ふれあい、にぎわう…。そこには住民の生活に密着した活気があふれている。

その商店街の活性化のツールとして一役買っているのが「地域通貨」(注)。商店街を歩くと利用を呼びかける張り紙が目につく。

「地域通貨」は、特定非営利活動法人「寝屋川あいの会」が「大和商店街」使用限定の「ありがとう券」として、2002年に発行。今年の9月からは、8つのボランティア団体が連携し、「げんき券」に名を変え、市内の全21商店街、約750店舗で使用できるまで拡大している。

「寝屋川あいの会」は、大和商店街の中に事務所がある。地域通貨「ありがとう券(げんき券)」を仲立ちとて、「出あい ふれあい 助けあいここ寝屋川の街に 思いやりの精神(こころ)が溢れて」を合い言葉に、▽高齢者支援▽子育て支援▽まちづくり支援-の分野で活動している。

具体的には、幼稚園の門番支援、高齢者向けのパソコン教室、生け花教室、ポシットづくり、一人暮らしのお年寄りへの配食サービスの配達・見守り支援、街かどディハウスといった実践を展開するなど、“人にやさしいまちづくり”の中心的な役割を担っている。

代表の三和清明さんは「『地域通貨』をツールとして活用することで、地域経済が活性化するだけでなく、地域福祉やまちづくり活動へ関心が高まり、ひいては、地域コミュニティの活性化につながります。住民が自然にふれあい、助け合い、共に支え合う。そんなぬくもりのある“まち(地域)”の実現を願って、これからも活動を続けていきます」と話しています。

(注) お互いに助けられ支え合うサービスや行為を、時間や点数、地域やグループ独自の紙券などに置き換え、これを「通貨」としてサービスやモノと交換して循環させるシステム。法定通貨ではその価値を表現しにくいボランティア活動や地域活動を地域通貨により、わかりやすく具現化することで地域が持っている潜在的な能力や活力を引き出し、地域で活かすことのできる仕組み。



そうぞう

12

2004.12*No.11

編集後記



●…本誌も前回(9月発行)で、10号を発行することができました。本格的な人権情報誌ということで、この間、多くの府民、関係者の皆さんから激励や期待の声が寄せられました。感謝しながら、さらに誌面の充実に努めていきます。

●…今回の企画特集。府立伯太高等学校と豊中市立第十六中学校を取材させていただきました。生徒たちの学習面だけでなく、生活面や進路の問題など、その「生き方」や「自己決定」について、親身になってかかわっている先生方の熱い想いにふれ、教職の重さを改めて認識しました。

指

寝屋川市 小学六年生(当時)
どい かおり
土井 花織

私は小指が曲がっている。
組立て体操や
重い物を持つこともできない。
だから、私の小指がいやだった。
消えたらいいとまで思った。
私はみんなに迷惑ばかりかけていて
ちょっとつらいこともある。
淋しいときも、いろいろある。
自分の小指のことで気を使ってもらうのはいやだった。
かわいそうだという目でも
見られなくなかった。
でも、いろいろな「障害」をもった人と出会って
今の私は
小指が好きになりそうだ。

2003年度人権啓発詩・読書感想文募集事業(大阪府・大阪府教育委員会など)の入選作品より

2004(平成16)年12月発行

発行/大阪府企画調整部人権室

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目 TEL06-6941-0351 FAX.06-6944-6616 <http://www.pref.osaka.jp/jinken/>

編集/財団法人大阪府人権協会

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12 TEL06-6568-2983 FAX.06-6568-2985 <http://www.jinken-osaka.jp>

この情報誌は20,000部作成し、1部あたりの単価は48円です。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています